

大学でアラビア語を学ぶ 10 の理由

本当は、あれこれもっともらしい「理由」を挙げる必要なんかないと思っ
ていますが、あくまで「一例」として、シンプルに 10 項目を挙げてみました。

1. 世界でメジャーな言語の一つです。

国連の公用語の一つです（アラビア語以外では、英語、フランス語、ロシア語、
中国語、スペイン語です）。24 か国の公用語です（パレスチナを含む）。母語と
しての話者数は、中国語・英語・ヒンディー語・スペイン語に次いで多く、およ
そ 3 億人いると考えられます。

2. でも日本では希少価値です。

他のメジャーな言語の場合、いくら勉強して上手になっても、上には上がいくら
でもいます。でもアラビア語は日本での学習者は少ないので、ある程度使えるよ
うになれば、日本ではかなり貴重な存在になれます。その気になってちょっと工
夫すれば、いろいろな仕事も回ってきます。

3. アラビア語は美しい。

ムスリム（イスラーム教徒）にとっては、アラビア語はアッラーが選んだ特別な
言葉。可能な限り完璧な美しさでその言葉を記録するために、いくつもの書体が
考案され芸術として発展しました。また、太さ長さを工夫しながら書くことで、
特別に学ばなくても独自の表現が出来ます。

4. アラブ人と話すのは楽しい。

どんな言語だって上達して話せるようになれば楽しいですよ。でもアラブ人は
「会話が娯楽」と言われるくらい会話好き。お酒の力など借りずに、おしゃべり
でコミュニケーションをとることができます。日本に戻ると、会話の少なさ、話
題の貧困さを物足りなく思ってしまうくらいです。

5. アラブ人以外でも話せる人が増えます。

アラビア語が母語でなくても、ムスリム（イスラーム教徒）のためアラビア語を
勉強している人がたくさんいます。また豊かなアラブ人の家庭でメイドや運転
手として雇われている外国人もいます。お互い母語ではないアラビア語で、下手
でも遠慮せずに話せるのが楽しいです。

6. アラブ世界は「怖い」？ なおさら学ぶべきです。

私は特にアラブ世界が「怖い」とは思いませんが(どんな地域や文化にも「怖い」社会はあるでしょう)、もし「怖い」と感じるなら、だからこそその世界の情報をつかむべきです。なぜ「怖い」人々がいて「怖い」出来事が起こるのか、その背景を知るには言葉の理解が大切です。

7. ビジネスの世界でも有望です。

若年層が多く、人口が増え続けているアラブ世界は、ビジネスの世界でも有望です。成長を続けるイスラーム銀行など、イスラーム金融の知識を得るために、仕事をしながらアラビア語を学び始めるビジネスマンもいるのです。ドバイやアブダビに事務所を置く日本企業も増えています。

8. 昔の文書も読めます。

日本語の場合、200年前の文書を読むのは容易でなく、ましてや1000年前のものは、古典文法を習い注解書の手を借りながらやっと少し読めるわけです。アラビア語の場合、書き言葉の文法は基本的にほとんど変わっていませんから、その気になれば独力で昔の文書を読めます。

9. 他の言語への応用力がつきます。

同じセム語系言語であるヘブライ語は、文法が似ていて学びやすいです。ペルシャ語は、文法はまるで違いますが、アラビア語由来の単語がたくさんあり、本のタイトルの意味などが分かることも多いです。ウルドゥー語など、アラビア文字を使っている言葉への興味も広がります。

10. ゼロから一緒にスタートできます。

英語はすでに差がついている！この差を埋めることも大切ですが、それだけではつまらない。中国語やフランス語の既修者も、たまにいます。でもアラビア語の場合、そんな人はまずいません。皆が同じゼロからのスタート、すべてはこれから学ぶ姿勢にかかっています。